

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272600396		
法人名	社会福祉法人 三恵会		
事業所名	グループホーム くろもりの郷		
所在地	〒039-4404 むつ市大畑町大赤川29-4		
自己評価作成日	平成28年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成28年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の特別養護老人ホームを社会資源として活用する事ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

海沿いにあり、はまなすラインから高台に位置し、周りを森林に囲まれた自然豊かで静かな場所にある。事業所内も共有スペースは吹き抜けで明るく、広々と感じられる。町内の市街地から離れた場所にあるが、地域の行事に参加するなど、交流を図っている。又、併設の特別養護老人ホームと協力し、家族や地域の方々との行事に参加するなど、利用者が楽しく過ごせるように心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有はされており実践につなげる努力はしているが、日々の業務の中では理念にそぐわない行動をしているとの自覚もある	玄関に基本理念が掲示され、職員間で共有されている。「笑顔で」という理念に沿った対応をしているか振り返りをし、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はなく、年に1～2回行事などを通しての交流はある	地域の祭りなど、行事に参加したり、事業所の敬老会には、婦人会の方々が踊りを披露してくれるなどの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部に向けての取り組みは行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年1回開催し、施設の現状報告はするが、参加者からの意見はほとんど出ない	年に一回、町内会長、民生委員、消防団の方々の参加で行っている。	定期的に開催できていない事が課題であると認識されている。開催できるように工夫し、サービスの向上につながる事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長がおこなっていると思われる	市町村との連絡は施設長が中心となって行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為はおおまかに理解している。拘束をしないケアを行っているが、ベッドからの落下防止柵は使用しており家族の同意を得ている。玄関の施錠は基本的に夜勤者1名の時に行っているが、日勤帯でも職員が1名しかいないこともあり、施錠する事もある	研修で学んできた内容を月一回の職員会議で報告し、全職員で共有し理解している。玄関には、開閉時に音楽がなるセンサーがあり、対応できるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修で学んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修で学んでいる。入居前より後見人制度を利用している方はいるが、入居後に新たに制度を利用できるよう支援した例はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている。改定などは文書で送付する事もあるが、疑問点の問い合わせには応じるという事を必ず付け加えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は日々の会話などからくみ取り、家族の要望は面会時、または電話などでうかがっている。苦情受付の窓口も設けている	利用者の要望は会話や声掛けなどから聞き入れている。家族には、面会時や電話などで要望を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で行っている	月一回の会議で、運営に関する内容から行事についての気づいた点などを話し合い、反映されている。又、全職員の意見を聞くように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	直接給与などに反映される事は無い		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には積極的に参加させてもらっている。資格取得のための支援も充実しているが、一部もっと研修を受けたいと考える職員もいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外での研修で他事業者と同席する事はあるが、その場の交流にとどまっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時に本人や家族から伺ってサービスに反映できるよう努めている。意思表示が出来ない方については、観察を重視して意をくみとるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りで来た事と、観察によって得られた情報から、話し合いをして考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	教えを請う姿勢で接したり、軽作業を一緒に行って、立場の違いを意識することがないように努めているが、はっきりと介護する側とされる側にわかれていると見える場面もある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小遣い銭や衣類などの補充のために来所する機会をつくって頂いたり、行事に招待したりしている。面会時には本人の状態を伝え、家族の意見を聞き参考にしているが、施設側にまかせるという考えの方も多い		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に立ち寄ったり、面会があったり行きつけの美容院へ行ったりするが、日常的な支援は行っていない	行きつけの美容院へは、家族と協力しあい、入居後も通えるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合うかどうかや能力の差などを考慮し、必要があれば職員が間に入って関わりを持つよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係先に情報提供はするが、その後は問い合わせなどがなければ何も行っていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	医師表示できる方とは会話の中から探り、それ以外の方については、観察で得た情報を共有して話し合い、把握に努めている	希望や意向を利用者本人から話してくる事がほとんどないため、職員から声掛けを行い、把握するように努めている。又、その情報は次の勤務者へ申し送り、全職員で把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に聞き取りをしたり、本人との会話の中から探したりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態については、各々気づいた事をケース記録や申し送りノートなどに記入して周知出来るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画は職員のみでの話し合いで作成しており、状態変化時すぐに対応できていない	面会時に家族より伺った内容や利用者への声掛けをして把握した内容などを計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りなどで情報の共有は出来ている。計画見直しの時は記録を参考にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズについては、話し合いにより新たなサービスを提供出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源についての把握ができていないため、活用法もわかっていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するまたは、入居前からのかかりつけ医への受診を支援している。定期受診の他にも受診が適当と考えられる状態の時は受診の支援をしている	入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう送迎や付き添いの支援を行っている。定期受診以外でも、受診が必要な場合でも対応が来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員と訪問看護師には必ず報告をし、助言や指示には必ず対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をしている。退院時にも事前に病院関係者と連絡を取り合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る事は限られており、家族にはその旨説明している。施設内で対応困難な場合は他の施設に移る事がほとんどであり、入院するケースもある	入居時に終末期の対応は行っていない事や重度化した場合の対応についてなどを詳しく話をしている。重度化により、他事業所への利用が必要な場合は、連携を取り支援出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、救急救命講習を全職員が受講している。職場内では応急手当などの訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は年2回行っているが、他の災害についての避難訓練は行っていない。隣接の特養とは、非常時の連携についての申し合わせができていない	年二回、災害時の避難訓練を行っている。居室入口に避難時の移動手段が示されており、職員以外の方でも対応できるように配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほとんどの職員が気をつけているが、配慮に欠けた言葉かけや対応をしていることがあると自覚している	介助時等は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮した声掛け、利用者の尊厳に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身からの表明がないため、職員から働きかけているがうまくいかないと感じている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を尊重したいと思っているが、職員の業務の都合ですすめることがほとんどである		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示ができる方には服装などを決めてもらうことがあるが、困難な方は家族からの聞き取りなどで好みの把握に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行っている。能力に応じた準備作業を行っている	野菜の皮むきや下処理、盛り付けなどを一緒に行っている。食事のあいさつを毎日交代制で行い、楽しい雰囲気の中で食事が出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食、お粥、刻み食など、本人の状態に合わせて提供している。また、嗜好やアレルギーの面で一部代用食を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後、口腔ケアを行っており、本人の状態に合わせて介助をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を利用し、なるべくトイレで排泄できるよう誘導、介助を行っている。介助は最小限となるよう、なるべく自分で行うよう促している	排泄チェック表を利用し、排泄のパターンをつかみ、日中はできるだけトイレへの誘導を行っている。又、利用者にあった排泄用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や繊維の摂取を促したり、1日1回体操をして頂いたりしているが、下剤や坐薬を使う事が多い		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	曜日や時間帯は職員が決めている。入浴剤を多様なものにしたし、菖蒲湯やゆず湯は毎年行い少しでも楽しめるようにしている	週二回で曜日や時間帯を決めているが、通院の予定などを考慮し、曜日を変更するなど柔軟な対応をしている。又、入浴ができなかった利用者には、清拭や足浴などの支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば休息は妨げず、状態を見て職員側から休息を促す事もある。夜は季節に応じた寝具や寝まきを用い入室は最小限にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全て理解していない。指示通りに服用できるよう支援し、誤薬防止のため二重、三重のチェックをしている。症状の変化は記録に残し医師に報告をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業をしていただいたり、歌番組を見て頂いたりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望はなく、付き添える職員もいないため行っていない。家族の支援のもとでは急な外出や外泊も行っている	家族と協力しながら、外出や外泊を行っている。又、天候の良い日に事業所のまわりを散歩するなど、気分転換が図られるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を管理できる能力と希望があれば行うが、現在そのようは方はおらず施設で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行うが、現在は行われていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾を工夫しているが、建物自体が家庭的ではない印象である。空調の調整が困難な状態にある	季節の装飾を工夫し、利用者と一緒に作るなど、楽しみながら行っている。風呂の脱衣所には、温風機を置いて、温度差のないように気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に居場所が決まっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部家族の方が持ち込まれているが、ほとんどみられない	本人や家族には、使い慣れたものなどを持ってきて活用できる事を伝えている。花の好きな方へ、花の飾りを置くなど、居心地のよい空間になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口の表札、日めくりカレンダー、浴室やトイレの表示、時計の高さなどは工夫しているつもりである		